

り対応していただいたためスムーズに運営できました。
関係者の皆さんありがとうございました。

□□ _____ □□

2. お知らせ … 第41回自費出版アドバイザー講座に40人受講、会員外から22人参加

□□ _____ □□

自費出版の原稿を、どのように料理して一冊の本にしていくかを学ぶアドバイザー講座『どうするその原稿—自費出版の料理法—』が11月30日に開催され40人が参加しました。特に今回は全印工連や日印産連のメルマガや機関誌にも広報されましたので、日本自費出版ネットワーク会員以外に全印工連から9人、ジャグラから11人、その他2人の計22人が受講しました。受講者の半数が会員以外というのは初めてのことであり、このように外部の方々に興味を持ってもらえるのはうれしいことです。

□□ _____ □□

3. トピックス … 第27回日本自費出版文化賞応募受付開始と色川大吉賞の新設

□□ _____ □□

第27回日本自費出版文化賞が12月1日から応募受付開始となりました。応募は2024年3月31日までです。今回から全日本印刷工業組合連合会（全印工連）や日本印刷産業連合会（日印産連）の広報にも掲載されますので、その効果が期待されています。また、選考委員の声により新たに「色川大吉賞」が新設されました。その意味を次のように記しています。

「歴史家の色川大吉さんが亡くなられて2年が経ちました。色川さんは、自費出版文化を日本の重要な文化として認識し、生み出された数々の作品を、かけがえのない歴史的遺産とされました。色川さんが自費出版の普及に尽力されたことを銘記し、日本自費出版文化賞に、あらたに色川大吉賞を設けることといたしました。（後略）」

なお、色川さんが残したお金から毎年賞金10万円を頂けることになりました。

□□ _____ □□

☆ 自費出版事情… ～会員便り～No.72

□□ _____ □□

株式会社東北プリント
大槻 潤

「ゆるやかな時の流れを感じさせる自費出版」

私には10年に一度、お会いするお客様がいる。

その方との最初の出会いはご本人が60歳の定年退職を迎えたときだ。

「趣味で作った100点超の木版画を1冊に残したい。」そんな思いがきっかけだ。

著者のご自宅に伺い、初めての本作りにご本人もたくさん悩みながらカタチにしていった。普段では完成を急ぐ本作り中心の営業職。しかし今回は、この悩む時間も本作りの楽しみとしてご自身が納得いくまでお付き合いさせていただいた。

ゆっくりと時間をかけて完成した一冊。

お届け後は本の冒頭ページに一枚ずつ版画を貼り、旧友の元にお届けしたと後日伺った。

それから10年の月日が経った。初版発行以後は年賀状のやり取りをする程度の関係が続いていた。ふとした時に久しぶりに電話が入った。聞けば「小遣いが貯まり、妻の許しも得たからもう一冊作りたい」とのこと。後日ご自宅に伺い再会するとご本人も70歳を迎え、10年の月日でだいぶ白髪が増えた。再会後第一声「太ったな！」と私へのひとイジリ。お互いの近況に笑い合い、「あれから10年で作り溜めた木版画集でもう一冊！」と再び本作りが始まった。

本を創る過程が楽しみになったこと、大切なひとりひとりに本を届け、年齢と共に希薄になりつつある縁を再び結ぶきっかけにしてくれる画集。そんな素晴らしさが自費出版にはあるという。

ご本人の画集タイトルも「縁」（えにし）とつけていたのが今でも忘れられない。

□□ _____ □□

☆ 知つとこ高知 その 7

□□ _____ □□

自由は土佐の山間より

幕末の雄、坂本龍馬を生んだ土佐ですが、日本の近代化にとってより大きな意味があるのは土佐の板垣退助が中心となった「自由民権運動」かもしれません。藩閥政府との政争に敗れ批判活動を始めた板垣退助ですが、その背景には欧米でロックやルソーが提唱した「自然権思想」（人間は生まれながらに自由かつ平等であり、生まれ持つての権利を有する）の影響が大きいと言われていました。民主主義が芽生えたこの時期、アメリカでは独立戦争、フランスでは革命が起き、そして日本では自由民権運動が盛んになりました。「自由は土佐の山間より」という言葉は、板垣退助たちが結成した立志社の機関紙に掲載された植木枝盛の言葉です。この時期、西南戦争や士族の反乱なども起きましたが、国会設立を主張し武力ではなく言論で対抗する姿勢や、不平の声を代弁するのではなく、不平の原因そのものを解消しようとする志はとも立派だと思います。「出版」という文化が広がっていったのも、この「自由民権運動」が大きなきっかけになったのではないのでしょうか。

リーブル出版（株式会社リーブル）
代表取締役 坂本 圭一郎

★あとかぎ

来年からの日本自費出版文化賞に新しく「色川大吉賞」が新設されるとのこと。「色川大吉賞」第一号はどんな作品が選ばれるのでしょうか。会員便りの大槻さんのお話のように、「本にしたい」というご縁で繋がる素晴らしい一冊に出会えるような、来年も良い年にしたいですね。年末のご挨拶には少し早いですが、今年一年のご愛読を心より感謝申し上げます。来年もよろしく願いいたします。そして、皆さまお身体ご自愛くださり、どうぞよいお年をお迎えくださいませ。

最後までお読みくださりありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

◆日本自費出版ネットワーク事務局
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階
電話：03-5623-5411
FAX：03-5623-5473
<http://www.jsjapan.net/>

過去のメールマガジンはコチラからご覧になれます
↓

